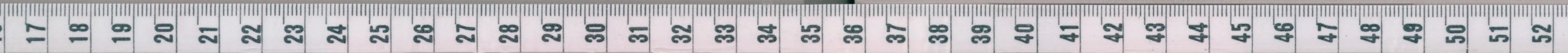


199
150

金魚そたて艸



国立国会図書館 タイトル『金魚そたて艸』 請求記号 199-150

ガラス使用

金魚そたて艸 全

199

150

東	和書門
京	物産類
圖	別函
書	二架
館	一七號
	一冊

洋演ニふ小大ニ命ヲ分シ也道ヲ遷ル
高ニ下塗シ也堂ニ可キ執テ小大ニ以テ起ス
争ル論ヲ哉因リ度ス

安ニ格ニ之

金魚養致孝目録

明王世貞金魚の撰

金魚の子のとり

繪エ景シ月リ大カ意カ

善シ惡シ入リけケやウ

子を産ム魚ノ記ス魚ノ入リやウ

子ノとりやウの秘シ傳ハ

真珠

金魚の子一番二番三番のえやう

口 餌のしやう 餌のしやう

口 玉子入りしやう 玉子入りしやう

口 水入り物て水入る大粒の

口 子の普悪んしやう

口 男女のえんしやう

口 父とてす傳授

口 病の付せるをえやう

口 養生のえやう

口 療治の大粒の

口 毒の付

口 魚のえんしやう

口 氷入る魚の時とりの

泉より田舎に掛の付授
 ありとありとありのん人
 口 けいしやうス録の
 がうありとありとあり
 せんらうのる けいしやう
 辯論

香花子月録終

金粟けいしやう

或む人の云金粟い人五百代後柏木院れん
 二年正月廿日とめて泉にた海のけいしやう
 孫おまをりして其由本をさるしんらうの
 ありらうにんしやうけいしやう書はけいしやう
 金粟のたまごがけいしやうにけいしやう
 めくはらうとせにけいしやうなる色の赤る天

真珠海

四



壯陽氣分をくわすのされがめでたき代は例の
 物をくわすと倍は倍にも今の年ぬりて實永
 百年の長と月とをくわすくわすは古と新物く
 今更に末由をとるに金更をとりてあそぶ人
 にいそくも歳月をくわすくわすはくわすは
 金更をくわすくわすはくわすはくわすは



四ツ尾
 尾のふちふちをくわす
 尾のふちふちをくわす



魚のあそび
 養穴
 ほうき
 向き
 金更
 尾のふち
 尾のふち
 尾のふち

春のめい
 大はちハ春のめい
 前さふふ五歩
 ちをほすみくわす
 ちをほすみくわす
 ちをほすみくわす
 ちをほすみくわす
 ちをほすみくわす



魚尾

四つ尾



い四つ尾をなを小くし、ゆして尾のほき根より四五歩あり、金の鱗をすを丸くし、名をよく品し、と又一寸四五歩も金の鱗せへのぼり、そのを長くと名をよ上品し、とす。

三つ尾



い三つ尾をなを小くし、ゆして尾のほき根より四五歩あり、金の鱗をすを丸くし、名をよく品し、と又一寸四五歩も金の鱗せへのぼり、そのを長くと名をよ上品し、とす。

楯尾



い楯尾四つ尾小くして、ゆして尾の対根のほり中より、金の鱗をすを丸くし、名をよく品し、と又一寸四五歩も金の鱗せへのぼり、そのを長くと名をよ上品し、とす。

大尾



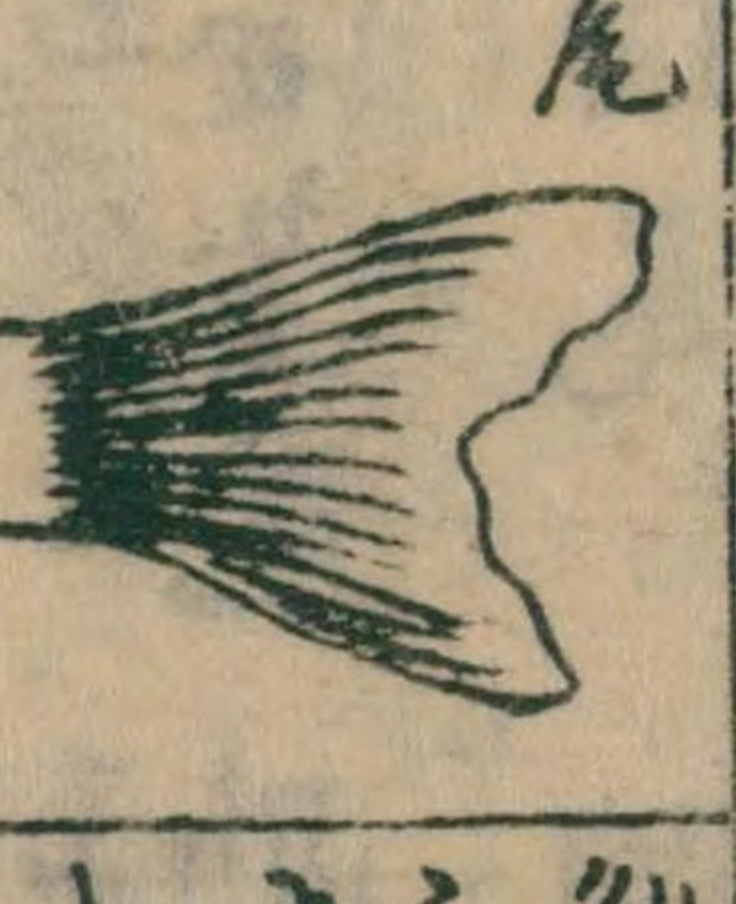
い大尾、矢張り小くして、ゆして尾の対根のほり中より、金の鱗をすを丸くし、名をよく品し、と又一寸四五歩も金の鱗せへのぼり、そのを長くと名をよ上品し、とす。

房尾



い房尾、矢張り小くして、ゆして尾の対根のほり中より、金の鱗をすを丸くし、名をよく品し、と又一寸四五歩も金の鱗せへのぼり、そのを長くと名をよ上品し、とす。

射尾

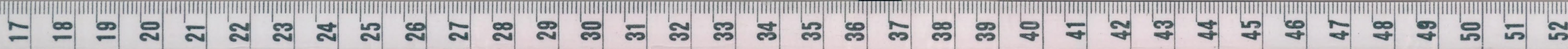


い射尾、矢張り小くして、ゆして尾の対根のほり中より、金の鱗をすを丸くし、名をよく品し、と又一寸四五歩も金の鱗せへのぼり、そのを長くと名をよ上品し、とす。

真珠海

六

五

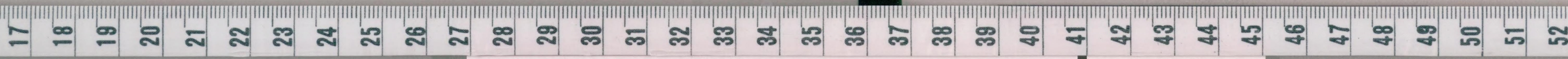


海老尾 兩が糸 片が糸 大開 中開 前揃
 指尾 門 蒲葺葉 獅子尾 一文字尾
 十文字尾 墨の外右の若りの尾りまじりも画がくふ
 いと海あ〜と又空永年中より泉も小異 眞
 四止りり 則名く 形の中のと左よりつとたり
 揚羽蝶 い魚ハ 尺格別小 濃く 糸を 塗き する 如く

ひらあろ 撥別大 小しそ びる 蝶よ 似たり
 一 相尾 尾のこは かん 通ハ 「かくの如く たり
 一 郭公 三ツ尾 中の尾 拾別 ちふしそ 郭公の尾
 小よく 似たり 一ハ 丈い 眞ハ 赤 白 黒 三々の
 尾 二枚 三たりて ちふふのし 小 似たり 右 口 色
 の 魚 平ハ 面白 こと あり あり あり あり あり

真珠海

二



魚子

魚子を産む産む産む

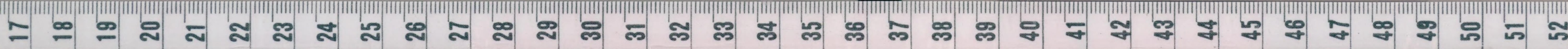
一産んとおふ奥の泉のあらしをよほしきく
走りおろしきく入脊骨より腹
ふくまぬ奥の産むとて餌をよほしきく
まは驚きよのく

口 子 ころの秘術

一産を産魚の心月下旬より産分餌知よ

を餌にちりちり産むるやうにすこば
産まらば病やうに水をかきよるは
元一月十日はとろくお子を取んたよ
付たよの六日の日産んと思ひ朝日と日と
餌をよほしきく初四日五日はぬ日小餌を多く
産むと泉より産むと入る産の入り池の
産のよほしきく如く小ころく多く入付の奥の

魚子



二番子のとりやう

一親魚は池分餌先を給一番子死一日より
五七日又十日をえん合産と見えやうハ右よ一
三番子のえやうも右よ一

餌の仕やう

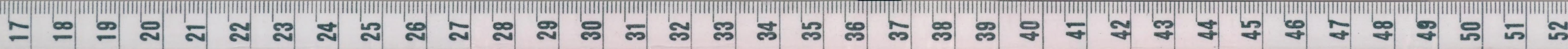
一池分をく水をえてよ一其年の子ハ餌を
多く喰はる一親魚ハ餌のさぶらやう小宮を

べし但し釣魚時分を善の七つ時分を餌を
くまらる

餌のとりやう并 効能

一赤子 至極よと餌く玉子之の四五日ほどして
餌の大魚ハ八用と子魚ハちうこ小あぶら
ハ育かす一ちうこハ金魚の乳くちうこ泉あ
へ入やう八月のあつこ水養ハ入水中少で振出

真珠海



べし塵芥もふきぬけし其候象も
 入時ハむす右のどくふされハ塵芥ハ
 のや残りてよぼろりもは
 一棒振出 其年の子六七歩二寸この間
 べしまよりハとほろりはとを
 よりみくどを喰せしはの合
 一紫麵はものをも湯で水で冷し
 十

金魚又妻をうの飯はの食物ハ
 和らふ焼あつて
 一鱈魚 生鱈 細く作り湯を
 一鶏の玉子 少な
 一食
 水中

眞珠梅



一 王子餅 大妻をよく細末小してかどを去
おまを煉湯熱く水にてをや細
くおまおまを煮て一 諸病を治し餅
魚の成長早くおまの餌なり

おまを煮たる 見分や

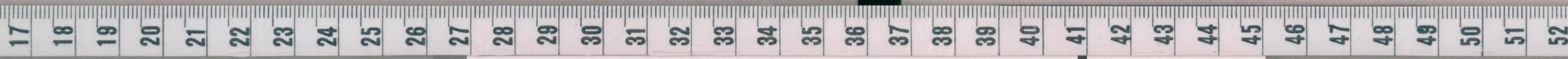
一 おまを煮てもおま小成よのゆかおまの水は
おまを煮て見分やおまを煮るは足を見分や

おま大系碗スハ餅の煮ても中の白さよの
を水の中へ入て見分やよくわらよのこ

おまを煮物て水を煮るや

一 おまを煮て日板立小ほの尾の形を
おまを水を煮るなり其よやハ泉の中
へいよをほゆいよの中なり水を煮て
七歩ゆりほゆいよの中なり水を煮て

真珠海

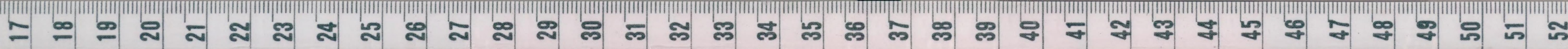


小成ちひなりの申まを扱あつかりり扱あつかるゝ水みづを指さ射しやも海うみ
 なるなるといいう中なかの水みづを入いれりりりの如ごとく
 して水みづをあくくへへ一い魚いさな早はやく成なり長ながく
 子この形かたち悪わる見み分わかり
 一い子こ三さん尾び四し尾びりりりをまりりり上う魚いさな
 上う魚いさなの志こころみみ下した魚いさなとと
 成なり長ながくく上う中なか下したもも上う魚いさなはは

廣ひろと泉いづみああ入い知ち立たるゝ大おほ魚いさな小こ成なり八はち首くび大おほなりなり
 志こころてて細こまくく熱あつ体たい也なりととせせ魚いさな
 一い成なり長ながととりり又また首くび小こなりなり也なり魚いさなのの志こころ
 志こころとと海うみりりり魚いさなハハ尾び射しやをまりり魚いさな小こ
 也なり大おほ魚いさな小こなりなりとと又また森もり氏うぢのの人ひと中なかハハ海うみ分わか
 把とてと鱗うろこああくく尾び厚あつくく尾び骨ほねちちくく熱あつ体たい
 志こころととりりり魚いさなとと成なり長ながととりりとと

眞珠海

十一

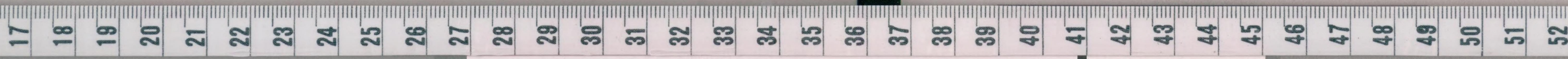


金魚の男女見分け
一男魚ハもんがりとして細長く鼻は
平ふして口は丸く又頭小ぶりのなり
女魚ハもんがり肥て口は丸く又頭小ぶりのなり
のあらさるゝ又頭大ぶりのなり鼻筋は
まじりまじりのなり子魚はしてハ見分
けしよ〜見分けはあきらむるに山で男の魚は〜

女魚ハ別の泉あり置へ〜すゝめ小魚ハ
女魚甚しいむものなり
一餌を喰ふは〜
お照さん〜お入るは其一火を平なる魚の
小入るははぬや〜小して餌をやめ水を
〜と魚をやせせ餌をま〜けい

真珠海

其理



ぬまりの病 魚は白く 絹を差すも ぶ
なり とうとうなることあり

一月ふわり とものおもむき 支なり 氣をば ぼる
べー

病魚 養生の志あり

一病魚ハ別の泉あり 又た ぬまりの ぬまりの け
毎日 ぬまり 新薬水を入らば ぬまりを合へ

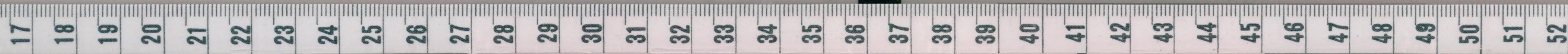
む ぬまりの ぬまりの 養生の 志あり ぬまりの ぬまりの
ぬまりの ぬまりの 養生の 志あり ぬまりの ぬまりの
ぬまりの ぬまりの 養生の 志あり ぬまりの ぬまりの
ぬまりの ぬまりの 養生の 志あり ぬまりの ぬまりの

日 療治の大秘あり

一三七草 令魚一切の 妙薬と 養ばり
を ぬまりの ぬまりの 養生の 志あり ぬまりの ぬまりの

魚 養

六



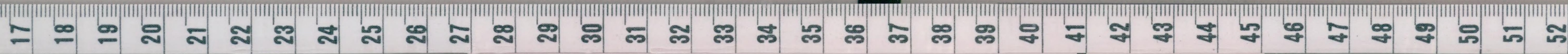
入赤ら黒ら白らぬまりふくま病
いぶん小用の甚妙く其対毒はらり魚
なまらぬくしきさるふと
一 魚はまりぬきさる右水中に振出し用ゆ
をさぶ病小も一又糞はまり小ハ鍼をさる
まりの傳

一 煙草吹空灰 鱗をのらりさる病は用ゆ魚
をもの上かの巨頭ばりを水のじこくまなる
経よほけをて鱗の上よりとり付くと虫
の根をぬくべし金魚ハ油濃ものゆ入りさる
物くを鱗落るのくさるかど又鱗くさるの
く

真珠

十一

一 山のはく水よむし金魚の徳病



用て甚効なり

金魚の毒の傳

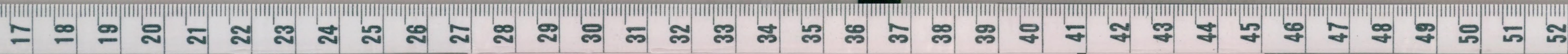
一塩氣の類 煤 諸の灰汁 油け 雨水多く金魚
松竹柳梅梅いかに一切植木の根葉の上よ
枝より時ハ雨天のとき、木のわく流し入魚一板
の中ハ斃るなり

一普竹少て枯るる竹葉蓋ハ雨天少らく出て毒

枯竹少て枯るる竹葉蓋ハ雨天少らく出て毒
ハらくも水は淺らくをせし蓋小くせし又
鼈水中に入ると魚を喰ひ得るへしを鼈多き所ハ
春夏も板ハ蓋をせし目の中へし魚の細
ハ茂竹貴の類ハ板ハ水氣少りて悪し
口 遠方へ遺とせし

魚毒

十一



やうにゆるゆるがよしむゆるゆる小ゆるまうゆる鉢ゆるのやうなる魚
ぞまのゆるをゆるとべし

水ゆるるべしゆる時ゆるのゆる度

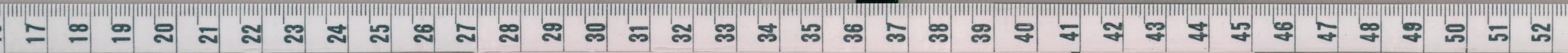
正月ゆるハ九日十日ゆる二月ゆるハ七日八日ゆる三月ゆるハ三日四日ゆる
五月ゆるハ産ゆるふく魚ゆるふさゆるい病ゆる付ゆるやゆるとゆる油ゆる取ゆる
なく水ゆるるべしゆる四月ゆる五月ゆる六月ゆる七月ゆる八月ゆる四月ゆる
を暑ゆる氣ゆるはゆるよゆる時ゆるたゆるんゆるたゆる三日ゆるハゆるほゆるふゆるとゆるべし

たゆるくゆる二日ゆるハゆる少ゆるても水ゆる上ゆるのゆるはゆるちゆるるゆるあゆるらゆるハゆるをゆる拾ゆる
氷ゆるを入ゆるるゆるとゆるべしゆる八月ゆる九月ゆるハゆる四日ゆる五日ゆるハゆる去ゆる
残ゆる暑ゆるのゆるほゆるとゆるべしゆる三日ゆるハゆる少ゆるともゆるとゆるべし

十月ゆるハ七日八日ゆる十月ゆるハ十日十日十二日ゆる十二月ゆるハ
十四日十五日ゆるハ定ゆるハゆるかゆるくのゆるどゆるくゆるなゆるれゆるとゆる十日ゆるの
ものを九日ゆるハゆる少ゆるともゆる一日ゆるハゆる少ゆるともゆる近ゆるるゆるハゆる雲ゆる
みゆるとゆる水ゆるとゆるてゆる毎月ゆる毎日ゆる三歩ゆる毎ゆる日ゆるほどゆるとゆるて

真珠ゆる毎

十



又水を入きまじへて魚ハとわく水のつぎに
をよるふく

一水を入る時ハ大なる水のぬふ新水を入
魚を後ハ泉木の水入して魚を入る

日度のもめり掛引のゆ

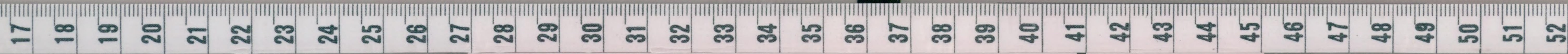
一夏五六月の間に高さ四五尺斗の日度茂の
簀と少とてもる日度ふたは度を早くえべ

ハ泉木の上へ直と竹の簀と入と板とを
蓋と小と其とふ小と蓋とのぬをと並とへと但と餌とを
喰とふりの心得と又と一とを天と氣と晴と日とのと時とハ
蓋とをぬ日と小と蓋とふと一と寒と中とハ餌と飼と合とりとせし
心得とへと

赤子のちりちりの考

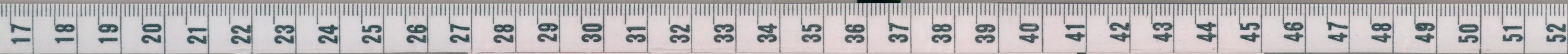
一大阪新町の内とよと一と東との城と小とちりと其とか野とよ

十一



より後りし時始てうまきを見らる小何事と云
寸位より大魚は是と云ふ小何事と云
ふれいなる筈お小何事由はく笑日本小ても
筈お小何事なり而わさめ之何知はひなれ
ども何のさなりやう小何事し又衆をよて何
あくし何事大魚小何事成るいさ金を賣を
何人これけさをもとるく

「らんらん魚ハ前さハ今迄さ所れとて正直
なりや上品と云ふ人すこし少ても背む
はさ又ハ背むと云ふところらうまきと云
の何事と云ふ人すこし少ても背む



後編 金魚秘訣録

原

大、お集りしはたし秘りゆかき業毒之年論あか

大坂心齋橋通

書林

河内屋

木兵衛

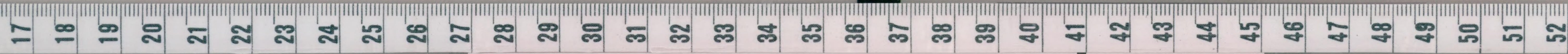
金魚秘訣録

全

柀

金魚秘訣録目次

一らんちり柀子の子の西



たゞ人は飯の人の命をたゞむものか
喰ふことせば脾胃をやぶるがじいん合く
おーづ、喰ふとべー

○らんらう徒はまらと餌の言

一 朝乃身とどふんわひのさたやうや
あねんらうにーと喰すべー但
かーあくも活氣あれた魚ーあざた
のさへーけ餌を二十日やど用ゆれば
乃介よくほまる大秘傳方あり

○あう子乃かまりに月ゆか

一 葛乃粉と酒にてさたあふて葛餅の
ぶとく移りこれ飯をさじとれかまら
たりよく日にちー粉ありて玉子のり
てうく喰ふとありあう子よりの各別よ
ろーく大に米あり粟の成者とは
まーもくやー大秘あり

○粟あこわらぬしやう

一 冬の月ハ粟あこほらまきしとまき
あここわらぬ粟つとじたり粒胡拂一本
やど本線の代りに入らるる粟あの中
に入をくへーあこわらまき

教訓 園路指南車 全二冊

浪花 玄川 半山 撰

人好欲する所の家業繁栄一富貴ありて子孫永続
移るるを道たうい過く悪道入りもびく人も此書
身といたらもち善道へ翻り父母孝養成し
主人へ忠孝ありて家内和合一
業此心も安樂して子孫長久に
近づく

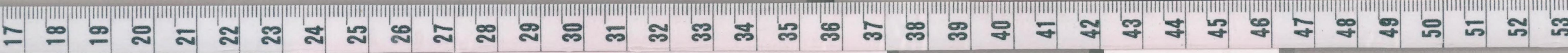
199

150

三百年新版

浪速書林

河内屋喜兵衛



一 子魚の餌

是ハ朝鮮金魚と日本金魚とを合せて
煮たりたり子魚を煮たりは難し

一同子魚の餌

一 釜中魚の餌ぬやう餌のいしやう

是ハ十一月より正月までさねさつ分ふ
金魚大木小ちりの餌方

一 らんごうよくはまる餌の大粒方

一 ありこ乃ろりにかりんごり乃方

一 釜中魚のこやうぬやう大粒方

右五ヶ条として金魚とくつ換ふ是より

おこなう難いやうにして金魚秘法録

と野号する也

○れこ子魚の餌やう同海場

六月乃至七月のせらふ入日あ毎う又ハ

泉あの中ふ魚としてして只の金魚乃

女魚一朝鮮金魚の男魚一うへまをそ

をへ一秋をれうら小孕なりけ子みま

れと也む女魚男魚とも

跡ふ大木ちり莫こもだ

子のむまう中魚ま

金魚喜ね草小ハ

書たるは母りやう

よしくををはけ

そまうををやうふ

うんぐんちるべ

○十一月より正月まで餌乃方

一 魚のいしやう

一 大粒をともつてのちれりどづ

みしてさだむりやうにかりへ

まねぬさび病はうずみんの中の大木

よちんこ但喰へ

たし人は飯人の命をさぐものさし

喰へてせし脾胃をさぶらぶ

喰へてせし脾胃をさぶらぶ





金魚秘変又録

全

配

金魚秘変録目次

一 らんちうのれとくの子の取やう

是ハ朝鮮金魚と日本金魚を交配して
おのりかり子なる時其のれとく

一同子魚の得やう

一 室中魚のいほぬやう 紺ういのしやう

是ハ十一月より正月までさねさつかふ
金魚大々小たりの得やう

一 らんちうよくほまる餌の大細方

一 あうこ乃らりにかりのれとく乃方

一 室中魚あのかうぬしやう大得授

右五ヶ条にて金魚とくの特授事見より

弁な難やべくはよつて金魚秘変録

と題号より老也

○ れとくの子の取やう 同得やう

六月乃至七月のせらふ入日あり又ハ

泉あの中小魚とてとく只の金魚乃

女魚一ツ 朝鮮金魚の男魚一ツへ 養ふて

養へ一 秋をたうらふ孕なりけ子みま

れとく也む女魚男魚とも

池に大々かり莫とくは

子のむまやう 飼ふやうハ

金魚喜ね草小ハバ

書たるを母りやう

よしくををけけ

そまうのをさやうふ

らんちうとるべ

○ 十一月より正月まで餌乃方

一 店がういあづをれあかり





199
150

国立国会図書館 タイトル『金魚そたて艸』 請求記号 199-150

ガラス使用



国立国会図書館 タイトル『金魚そたて艸』 請求記号 199-150

ガラス使用